

# 教会新聞

SDA Ishikawa Church News

2019年

12月号

第一号

発行者：松下晃大

『慌ただしいクリスマス』 ぼくしだより -pastor's message-

沖縄も肌寒くなってきました。2019年も最後のひと月となったことを感じます。かりゆしとアロハで日々過ごしている私にとっては試練の月です。また忙しさも増し、年の締めくくりに向かいつつあることを実感します。皆様、お体に気をつけて日々大切にお過ごしください。

12月はたくさんのイベントがありますね。楽しいクリスマスのイベントが立て続けにやってきて、クリスマスが去ると同時に年末年始への準備です。家庭でも職場でも学校でも慌ただしくなる時期だと思います。

日本では月の名称として12月の他に「師走」という呼び方もあります。「師走」の由来は「年末は師が忙しく走り回るから」という説が有力です。「師」が誰なのかということに関しては諸説あるようですが、「僧侶が仏事のために走り回る」とか、「神主が一番で忙しい時期」「教師も慌ただしく走り回る」など、仏教・神道から来た言葉のようです。

ただ、キリスト教も負けてはいません。というよりむしろ、キリスト教の教会のほうが12月は忙しいのではないかと思います。なぜならイエス様の誕生を祝うクリスマスの時期だからですね。師走の師は「牧師」の師ということでわたしは納得しておきます。

聖書を見ると、クリスマスの箇所（イエス様誕生物語）では、慌ただしく過ごしている人物がたくさん登場します。イエス様のお母さんマリヤ、彼女は天使に妊娠を告げられ、その言葉に確信を持つために、遠い叔母の家に行きます。マリヤの婚約者ヨセフは、身に覚えがないのにマリヤが妊娠したという知らせを聞いて落ち着きません。信仰によってその出来事を受け入れた2人は王様の命令によって故郷ベツレヘムまで帰ります。これまた長い道のりで、身重のマリヤにとっては大変です。やっと到着したベツレヘムでは宿が空いておらず、町を駆け巡りやっとの思いで馬小屋を見つけます。そして馬小屋の中で、マリヤは休む暇なくイエス様を出産します。すると、イエス様誕生をお祝いするために、天使や羊飼いや遠い国の博士たちも駆けつけます。なんだかクリスマスなのにバタバタしていますね。どこかのサンタさんのようです。

そのような慌ただしい中、バタバタしていた人たちがシーッと、心静めて過ごした時がありました。それは、すやすや眠る赤ちゃんイエス様と会った時です。みんなで息をひそめて赤ちゃんイエス様の寝顔を眺めたはずです。慌ただしい師走の時期、私たちもちょっと立ち止まり、イエス様と出会い、心を落ち着けたいと思います。

「静まって、わたしこそ神であることを知れ。…万軍の主はわれらと共におられる。」詩篇46：10,11

## ☆今月の聖句☆

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。 マタイ1：23

## ♪今月の賛美歌♪

牧人ひつじを 守れるその宵  
み使い来たりて よるこび歌えり

ノエルノエル たたえよ  
主イエスは生まれぬ  
(希望41番)